

番号	研究者	大学	相談可能分野/産業界へのアピールポイント	キーワード1	キーワード2	キーワード3
環-1	藤野 毅 教授	埼玉	水環境工学・生物環境科学・応用生態工学 最近は見沼グリーンカーボン事業として、モリンガ栽培によるCO2吸収と固定に取り組む その他の主なテーマ: 電気分解法による水質改善/PCR法による遺伝子解析/炭化物の利活用法の探索/熱中症搬送者予測解析	水環境保全	物質循環	微気象
環-2	稲垣照美 教授	茨城	熱工学、赤外線工学、環境工学	熱	流体	赤外線
環-3	北和之 教授	茨城	大気環境計測 大気リモートセンシング	オゾン	エアロゾル	窒素酸化物
環-4	粕谷健一 教授	群馬	微生物を用いるコンポスト・排水処理、生分解性プラスチック、バイオマス(茶粕、コーヒー殻など)の資源化、ポリ乳酸、バイオトレ、機能性食品の開発	生分解プラスチック	コンポスト	汚水浄化
環-5	伊藤 司 准教授	群馬	微生物の制御と活性化 上下水道 微細気泡による効率的ガス供給	微生物	水処理	微細気泡
環-6	小松崎将一 教授	茨城	土壤保全 有機農産物 福祉分野	有機農業	自然農法	園芸療法
環-7	大橋朗 教授	茨城	溶媒抽出 分析化学 レアメタル回収	超臨界二酸化炭素	抽出分離	レアメタル
環-8	田中伸厚 教授	茨城	高速流 キャピテーション 複雑流れ 流体連成事象	流体解析	混相流	CG
環-9	田村誠 教授	茨城	気候変動の社会・経済的影響	サステナビリティ	気候変動	適応策
環-10	横木裕宗 教授	茨城	海岸侵食対策, 水質浄化技術, 気候変動への適応策	海岸地形変化	水質浄化	サンゴ礁海岸
環-11	成澤才彦 教授	茨城	苗生産、環境修復、微生物利用	土壌微生物	エンドファイト	有機栽培
環-12	渡邊智秀 教授	群馬	排水処理、上下水道、水環境保全技術、水質浄化、 廃棄物処理・処分、有用資源分離・回収	微生物燃料電池	微生物機能	水質変換
環-13	川合真紀 教授	埼玉	生物(特に植物)の環境応答の分子機構とバイオテクノロジーを用いた環境ストレス耐性 植物の分子育種、植物物質生産代謝	植物分子生物学	メタボローム解析	遺伝子組換え
環-14	門野博史 教授	埼玉	統計光学、レーザスペックル干渉測定、バイোসペックル応用測定、光散乱応用測定、これらの非接触。非破壊な高感度光測定技術を植物の動態・機能測定へ応用新しい環境センシング技術	干渉法	レーザースペックル	統計光学
環-15	橘 熊野 教授	群馬	有機合成、高分子合成、高分子物性評価、成形加工、リサイクル、法規制・規格	非可食バイオマス	バイオベース材料	高分子合成
環-16	秦野賢一 助教	群馬	試料中の微量元素分析 植物修復 汚水の脱色処理 蛋白質の精製・構造解析	地域環境	循環型社会システム	汚染除去・修復技術
環-17	板橋英之 教授	群馬	環境からの重金属の除去技術、環境中の微量元素の分析技術、金属元素の相互分離技術	重金属	有害有機物質	環境浄化
環-18	桂 進司 教授	群馬	静電気応用工学、PCR増幅、微量検出	マイクロ反応	μ TAS	1分子操作
環-19	佐藤達雄 教授	茨城	作物栽培技術、栽培システム開発	農作物	高温耐性	植物免疫
環-20	横尾 昇剛 教授	宇都宮	・地域の熱エネルギー資源を活用したまちづくり ・カーボンニュートラル建築都市 ・木造木質化とライフサイクルCO2	脱炭素・カーボンニュートラル	熱利用	環境性能評価
環-21	岩井 秀和 助教	宇都宮	・プラズモン励起を利用した光触媒反応の制御 ・分子構造・電子構造に関する測定・シミュレーション ・ヒトの自律的行動における内発的動機付け	光触媒	有機物自己組織化構造	表面科学
環-22	荷方 稔之 助教	宇都宮	・バクテリアの走化性を利用した化学物質のセンシングシステムの開発 ・植物病原細菌の感染における走化性の役割と感染防除に関する研究 ・多剤耐性日和見感染細菌の新規制御技術の開発	微生物	細菌	バイオテクノロジー
環-23	大澤 和敏 教授	宇都宮	・沖縄における赤土流出問題に関する研究 ・放射性物質で汚染された地域の復興に関する研究 ・熱帯泥炭湿地の保全と温室効果ガスの放出抑制	自然環境に関する野外モニタリング技術	室内実験(降雨実験など)	物質循環の数値シミュレーション
環-24	平井 英明 教授	宇都宮	・未利用資源の資源化処理とその育苗培土への活用 ・未利用資源の作物栽培への活用に関する研究 ・SDGs時代における体験型土壌教育プログラムパッケージの開発に関する研究	土壌の生成	水田・森林土壌	未利用有機物の利活用
環-25	石川寿樹 准教授	埼玉	・遊離型セラミドを植物細胞内で安定生産できれば、これまでの植物セラミド(糖セラミド)に替わる次世代のセラミド供給源になります。 ・植物型セラミド構造を形成する代謝酵素をゲノム編集技術で改変することにより、任意のセラミド構造タイプを選択的に合成することができます。 ・ヒト型、植物型、その他天然セラミドを、高精度に分析する技術を有しています。	セラミド	スフィンゴ脂質	代謝工学
環-26	窪田 恵一 助教	群馬	細胞外へ電子を直接放出可能な“発電微生物”を利用した生物電気化学手法を応用して、発電可能な有機性廃水処理技術や底質などの水環境改善技術のほか、廃水処理と同時に有用物質の生産や分離・回収が可能な革新的水環境技術の開発に挑戦しています。	用水/廃水処理	水環境保全	生物電気化学技術